

令和 7 年度 1 学期始業式式辞

「急がば回れ」ということわざがあります。「危険な近道よりも、遠くなっても安全な道を通る方が、結局は早く目的地に着く」という意味ですね。

この「急がば回れ」のような、一見間違っているように見えて、実は真実をついている言説を「逆説」といいます。

さて、ここからが本題なのですが、皆さん、なんかうまくいかないな、満ち足りないなと思っている人はいませんか。実は、その人たちにある共通の傾向があるそうです。

「どうして●●してくれないんですか」とよく言う人。

言葉に出して言っている人もそうですが、心の中でそうつぶやいている人もです。

この人たちはいつも、「誰かが自分にしてくれない」と考え、不満を抱いています。「くれない、くれない、してくれない」。私は、この人たちを「くれないの罫」にはまってしまった人と呼んでいます。「くれない、くれない、してくれない」と、年から年中、不満を感じている。

オーストリアの精神科医であり心理学者のアルフレッド・アドラーという人は、「もし、『他者が何かをしてくれない』という悩みを持っているならば、それはあなたが自分のことしか考えていない何よりの証拠である」(長江誠司『アドラー珠玉の言葉』P148)と言っています。

どうもこの「くれないの罫」にはまってしまった人は、「自分のことしか考えられなくなっている人」のようなんです。

では、この不満地獄の「くれないの罫」から抜け出すにはどうしたらいいのか。

おすすめしたいのは、「誰かを助けること」、「何かに貢献すること」。

「自分のことで精いっぱいなのに、誰かを助けたり、貢献するなんて、そんな余裕はない！自分が損して何で他人を喜ばせなければならないんだ！」、そう思うかもしれません。

ところが、です。ボランティア活動などの貢献的活動を実際にやったことがある人は分かると思いますが、誰かのために何かすると、不思議なことに充実感、幸福感が得られるんです。心理学では、これを「自己肯定感が高まる」という言い方をします。

人に与えると損をするようだが、実は自分が幸せになる。一見間違っているように見えて実は真実をついている。まさに「逆説」。

先ほど紹介した精神科医・心理学者のアドラーは、「幸せになれる人」として、「支配する人」「逃げる人」「奪う人」を挙げています。ということは、この反対を行く人は幸せになれるわけです。「支配しない人」「逃げない人」「奪わない人」。「奪わない人」、すなわち「与える人、貢献する人」ですね。「与える人、貢献する人」は、幸せになれるんです。

みなさん、「くれないの罫」にはまっていませんか。今は春、始まりの季節です。逆転の発想で、誰かのために「与える人」「貢献する人」になって、幸せになりませんか。

令和 7 年 4 月 8 日
校長 伊藤文一